様式1 令和元年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自尊感情を高め、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　川手　正昭

本年度の重点目標	
	1　自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する
	2　CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる力を育てる
	3　自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（令和2年2月中旬）			実施日　（令和2年2月中旬）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見
1	自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する	学習意欲を高める教材や自己の在り方生き方についての考察を深める教材の工夫 アクティブ・ラーニングの視点による授業実践と 相互授業観察による授業力向上 （研究授業参観を含め計3回以上） 三部制に対応した教育課程の編成 主体的な学びを定着させるための、個別課外の実施や学習室の設置等、学習環境の整備	定通研レポート 振り返りシート 授業アンケート 指導案 授業観察記録表 授業アンケート 教育課程の編成 計画的実施状況	・学習意欲の高揚に関して、教員は「学習意欲やあり方生き方を深める教材への工夫ができている」が97.9%、生徒は「多くの先生方の授業は、わかりやすくするための工夫をしてくれている」が82.0%と、ほぼ良好な結果となった。 ・アクティブ・ラーニングの視点での授業実践等について、教員は自分の授業に関して78.7%が肯定的であり、生徒の授業に関する項目で「学力が付いた」、「授業が好きだ」、「自分は意欲的に授業に参加している」の肯定的意見の平均が78.3%となっており、これもほぼ良好であった。 ・教育課程の編成について、職員は「生徒の特性に応じた各教科・科目の履修、生徒の個性を生かす編成」について97.9%が肯定的であった。三部制については、記述意見の中で、その弊害を訴えるものもあった。 ・平成27年度から学習室が設置され、個別学習に対するハード面は充実したが、利用する生徒が少数ではあることは否めない。ただ、教員の「個別指導を行っている」は91.5%が肯定的であり、昨年度から始まった通級指導も含めて手厚い個別指導を行っている。	B	・教員としても最重要課題として捉えなければならないのが授業改革である。相互授業観察や様々な研修で、授業力の向上に取り組んでいるが、7割の生徒が授業に肯定的であるということは、逆に生徒の3割が授業に不満を感じているということであり、授業改善の余地は十分にあると考えている。アクティブ・ラーニングの視点である「主体的・対話的で深い学び」を視野に入れながらも、実際に生徒の現状にあった、実際に生徒が社会に出て有益である、生徒の人生が豊かになる授業実践が、生徒にとって「わかりやすい授業」になると考え、授業改善を行っていきたい。 ・教育課程については、引き続き、生徒は益々、多様化していくことを念頭に、充実した高校生活が送れるような教育課程を考えていきたい。 ・例えば、個別指導について個別課外までは三部制で時間的余裕がないため、ほとんど実施されていないのが現状である。他、部活動の時間や職員の勤務体制についても三部制は関連している。「より良い三部制のあり方」についての検討は重要だと考えている。	3	・およそ3割の生徒が授業に興味を示しにくいとのことだが、自分の学生時代を振り返ったり、通級指導の利用などで授業改善をしてほしい。 ・どのような状況下にある生徒でも学習は重要である。繰り返し教えるなど粘り強い指導を行ってもらいたい。 ・授業に興味を持てない生徒の場合、その原因がどこにあるかを探しながら指導をすることが大切である。 ・型にはまった授業ではなく、生徒の本音や希望を聞き取りながら、柔軟に対応できる授業を目指してほしい。 ・学校改善・点検アンケートでの生徒の回答結果を見ると、8割前後の生徒が肯定的に捉えており、少人数教育によるきめ細かな指導や先生方の授業改善の取り組みが成果を上げているものと評価する。 ・特に、「家庭での学習時間の1日平均時間」が伸びており、先生方の学習指導への熱意や工夫が生徒の自己学習意欲を高めているとも思われ、高く評価できる。 ・一方、学習指導に関する多くの項目で、昨年度と比較すると、肯定的な評価が若干ではあるが低下し、保護者からの「授業がわかりやすいと言っている」との評価も低下していることを見ると、今後も個々の生徒の状況に応じた授業改善・工夫が引き続き欠かせないとも感じられる。課題点を確認し、さらに授業改善に努めていただきたい。
2	CHUOハーモニックプランに基づき、生徒の社会において自立できる力を育てる	分掌や年次によるハーモニックプランの実践 入学から卒業までの系統的なキャリア教育の充実 生徒の状況に即した総合的な学習の時間の計画的運営 SSTや通級指導等の実践による、豊かな心の育成と社会性の育成	課題別評価表、自己観察書などでの計画実施状況 LHR・総合・行事などの計画実施状況 計画的実施状況 SST指導の状況 通級指導の状況 アンケート調査	・教員の「ハーモニックプランの実践」の肯定的評価は93.8%と高い一方、生徒の「（ハーモニック・プランの目標）自己肯定感」は67.6%と低く、職員・生徒間で乖離が見られた。本校に入学する生徒の多くは自己肯定感が低いと言われるが、長い年月を掛けて失われた自己肯定感・自己有用感を少しでも改善するためには、長い年月が必要だと考えている。特に、一番必要なのは「体験」だと考え「THE　ENSOKU」を始め基本的な体験を取り入れている。それが生徒には「ハーモニック・プラン」の一環だとは自覚しにくい面もあるが、引き続き根気よく続けていきたい。 ・「進路行事や情報提供の充実」は教員97.8%、生徒85.8%、保護者76.8%とほぼ良好な評価を得ている。 ・教員の「総合的な学習の時間」に対する評価は91.5%と高いが、企画振興係への依存が大きいといった面もある。ただ、年次との連携もできており、全体の先生方で充実した教育活動を展開することができた。 ・SSTや通級指導は生徒に取って必要な指導となっているが、教育相談係を中心とした実践が中心で、学校全体に浸透しきっているとは言いがたい。教育相談係で通信を出したり呼びかけもしているが、教員の多忙化もあり、全員の先生がスキルを身につけるまでには至っていない。	B	・「CHUOハーモニックプラン（生徒が自分を大切にし、社会性を身につけ、自立を目指す取り組み）」の保護者への認知度70.6は若干低いように感じる。また、生徒の3割が自己肯定感を持てないと回答しているのも事実であり、引き続きCHUOハーモニックプランを推進し、意図的・計画的に自尊感情を高め、社会性を醸成し、自立する力を向上させる取り組みを続ける。 ・進路指導に関しては全体的に高い評価が多いが、多様化する生徒の傾向を踏まえ、一段と個別の指導が重要性を増してくると考えている。 ・総合的な学習や学校行事を授業とも横断的に繋げ、生徒にとって深い学びとなるように、保護者への周知及び引き続き外部諸機関との連携が大切であると考えている。 ・本校は「通級による指導」やソーシャルスキルトレーニングも行われている教育相談の先進校である。教員としてのカウンセリングマインドを学べる環境を生かし、生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な指導を行えるよう、全員の先生方の資質向上を目指していきたい。	3	・進路指導は第1に生徒の希望を尊重しながら、生徒の適性を考慮して指導し、保護者と連携しながら、早期に進路目標を定めてやる指導が望ましい。 ・中央ハーモニックの手法はかなり確立しているようだが、さらに改善して、生徒と教師の距離が近くなるようにしてほしい。 ・生徒の個性に幅があり指導がたいへんかもしれないが、先生方の経験を指導に生かしてほしい。 ・「CHUOハーモニックプラン」に基づくソーシャル・スキル・トレーニングや新聞活動はとてもユニークな取り組みであり、多くの先生方も生徒の自尊感情の向上や社会性の育成に寄与していると捉えている。生徒の心や意欲、人生観に関わるテーマや取り組みでもあり、すぐに結果が表れるものではないと考えるが、今後とも生徒が体験を通して、自身の生き方を振り返り、人生に前向きに臨めるような取り組みを継続していただきたい。
3	生徒が自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる	挨拶をきっかけとした教師と生徒の信頼関係づくり 教師の対応力（生徒・保護者への対応、危機管理などの力）の向上 支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制づくり 生徒の安全確保体制の整備	登校指導や号令時や日常の様子、アンケート調査 生徒指導・支援会議などの指導状況報告、アンケート調査 生徒指導・支援会議、進路決定状況 危機管理マニュアル 防災計画書の内容 防災教育の実施状況 （避難訓練は実践的であるか等）	・挨拶について職員の87.3%、生徒の78.7%が肯定的評価だった。 ・教員の「対応力の向上」は91.5%と高評価となっている。生徒及び保護者の視点に立った対応並びに臨機応変な対応や教員間の情報共有を大切にしている結果であると考えている。 ・支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制づくりについて、職員評価はたいへん高評価であった。 ・教員の「危機管理マニュアルの作成や訓練実施」は91.3%、生徒の「災害訓練」も90.5%と高評価である。生徒の意識が、登下校や家庭での防災意識といったところまで発展すると、より実践的になると考えている。	A	・挨拶の評価について、数値としてはまずまずだが、挨拶は信頼の象徴であり、学校の雰囲気であると考えており、まだまだ十分な評価であるとは考えていない。登校時、号令時や廊下でのすれ違い時など、教員側から積極的に挨拶を行い、より高い評価となるように改善していきたい。 ・教員の「対応力の向上」は高評価であるが、慢心せず引き続き、生徒及び保護者の視点に立った対応を心がけたい。また、保護者アンケートで、「学校からの各種通知が届いている」の項目での肯定的評価が73.6%と低い値となっている。日常的な保護者との意思疎通にも力を入れる必要がある。 ・外部支援に繋げる方法は確立しつつある。一方で、学校への相談に関して敷居が高いと感じている生徒もいる。引き続き、気軽に悩みを相談できる雰囲気作りを心掛けていきたい。 ・防災訓練を通じて、生徒の主体的かつ適切な行動力を育む教育実践を推進していきたい。	3	・挨拶は本来、就学時期前から家庭教育によって習慣づけされるべきものである。しかし、学校は勉強だけでなく「人づくりの場」であると考えると、学校において社会人としての礼儀を教えながら、その意義を再度、自覚して、挨拶が自然と実践できるように指導してもらいたい。学校全体として挨拶励行の輪が広がると良い。 ・防災について、生徒が家庭で話し合い、地域で行われる防災訓練などにも参加してくれるような指導を、学校の防災教育で行ってほしい。 ・保護者アンケート結果は、保護者の子どもに対する期待が含まれていることを学校は理解してほしい。 ・生徒のアンケート結果を見ると、「健康管理に関わる指導」や「清掃活動や環境美化の取り組み」への評価が向上しており、生徒の学習や生活を支える環境改善の取り組みについて成果が伺える。 ・生徒の8割程度は、「先生方は同じ歩調で生徒指導にあたっている」、「先生との信頼関係ができている」、「先生に悩みを話したり、アドバイスを受けたりしている」といった項目について肯定的に捉えている。やや斜めに捉えている残り2割の生徒についても、全ての教員がチームとしてそれぞれの強みや人間性を発揮して、粘り強く指導にあたっていただきたい。 ・昨年度と比較して、保護者による「子どもの悩みや問題について学校に相談できる体勢が整っている」、「担任との間に信頼関係ができている」といった評価が低下しており、教員でも「対応力の向上を図っている」との回答が下がっていることがやや気がかりである。この点についても、真摯にその原因や課題点を検証し、次年度に向けて改善を図っていただきたい。